

課題名：原発性副甲状腺機能亢進症に対する天然型ビタミン D 補充の
安全性および有効性の検討

◆研究の目的と概要◆

原発性副甲状腺機能亢進症は、副甲状腺という首にある小さな臓器から副甲状腺ホルモン（intact PTH）が過剰に分泌される病気です。その結果、血液および尿のカルシウム濃度が上昇したり、骨がもろくなったり、尿路結石や腎機能障害を起こしたりすることがあります。また、この病気の患者さんではビタミン D が不足していることが少なくありません。

一般に、ビタミン D 不足・欠乏を伴う骨量減少・骨粗鬆症患者さんでは、天然型ビタミン D（コレカルシフェロール）をサプリメントなどにより補充することで、骨の健康を保つ効果が期待されます。しかし、原発性副甲状腺機能亢進症の患者さんでは、血液や尿のカルシウム濃度が上昇しないか注意が必要です。一方で、天然型ビタミン D の補充により、副甲状腺ホルモンや骨代謝が改善する可能性も報告されています。

そこで当院では、原発性副甲状腺機能亢進症に対して天然型ビタミン D 補充を行った患者さんを対象に、補充前後の副甲状腺ホルモン値、血液および尿のカルシウム濃度、骨代謝マーカー（骨の形成・吸収の程度を示す血液検査項目）などの変化を調べています。天然型ビタミン D 補充の有効性と安全性を検討することで、原発性副甲状腺機能亢進症のより良い診療につなげることを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2018 年 4 月から 2026 年 3 月までの間に、当院で原発性副甲状腺機能亢進症と診断され、ビタミン D 不足または欠乏を認めたため、天然型ビタミン D 補充を受けた方。

◆研究に使用される情報◆

性別、年齢、合併症、既往歴、現病歴、内服薬、天然型ビタミン D の投与量・投与期間、副甲状腺手術の有無と、血液検査結果（カルシウム、リン、intact PTH、25OH ビタミン D、eGFR、ALP、total P1NP、TRACP-5b）、尿検査結果（カルシウム・クレアチニン比）を使用します。

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2026 年 8 月 1 日以降

◆研究方法◆

本研究は診療録（カルテ）等からの情報を利用します。天然型ビタミン D 補充前後の検

査結果を比較し、intact PTH、血液および尿のカルシウム濃度、骨代謝マーカーなどがどのように変化するかを調べます。通常診療で得られた情報を用いる研究であり、研究のために新たな検査や治療を追加することはありません。

- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
- * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

内分泌代謝・リウマチ内科 研究責任者 田村 勇亮

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明